

庭を詠む 大畑恵

年に一度くらいしか帰らない息子達、庭を眺めて「この庭何とかならないの。すごい事になっている」と言います。その言葉に「季節ごとに色々な花が咲き綺麗になるんだよ」と答えています。梅、紅梅、桃、薔薇、百合とつぎつぎに咲いてくるのを待ちます。空いた場所に何やかやと植えて足すので、春になると「あ、こんを所に芽が出た」と驚く事もあり、一番の喜びです。枇杷、さくらんぼ、蜜花果、ブルーベリーも実り、そのまま頂いたりジャムにしたりと楽しんでます。ただ、落ち葉も捨てずに根元に敷いてあるので、冬の間は、見た目はひどい事になっています。

俳句を始め、句作に悩んでいた時、庭を眺めてふと湧いてくる言葉を並べてみました。なんとなく五七五に合いました。句が詠めたとうれしく思いました。何とか俳句が続けられるのは、この庭のお陰かも知れません。

春蘭は里の山にも咲く頃か

空青く今年も咲ける母の桃

亡き父母の写真に写る桜かな

チューリップ赤白黄色鮮やかに

紅牡丹白き花瓶によく映えて

薔薇の花庭いっぱい香りけり

帰郷せる息子とダリア眺めたる

小雨降る庭に公孫樹の落つる音

公孫樹散る音を聞きつつお茶を飲む

風吹いて山茶花の花散り急ぐ

《作品鑑賞》

亜矢

「庭を詠む」は、大畑恵さんの、庭に対する並々ならぬ愛情が感じられる作品です。四季を通して様々な植物が花を咲かせ、実りをもたらすとのこと。とても豊かな庭が想像され、また、ありのままの姿を受け入れる作者の心が伝わってきます。

空青く今年も咲ける母の桃

お母様の植えた桃だろうか。開花を毎年楽しみにしている。しかも今年も、桃が晴天の日を選んだかのよう。

帰郷せる息子とダリア眺めたる

ダリアと男性はよく似合うと私は思う。久しぶりの息子さんに、ダリアをうれしそうに見せている作者。とても大切な時間である、公孫樹散る音を聞きつつお茶を飲む

もうすぐ冬がやってくると思いつつお茶を飲む作者。視覚ではなく聴覚で感じているという繊細さ。